
男女共同参画・若手支援委員会企画シンポジウム 働き方の多様性を考える～After コロナ時代に向けて

オーガナイザー：日本生物物理学会 男女共同参画・若手支援委員会

日 時：2021年11月27日（土）12:00～13:30

会 場：オンライン開催

形 式：講演会

司 会：田端和仁（東京大学）

シンポジスト：土屋理恵（Novozymes A/S），石崎章仁（分子科学研究所），伊藤奨太（日本学術振興会）

※このイベントは日本語で開催します。

* This event will be presented in Japanese language.

概 要：新型コロナウイルス感染症がきっかけとなって、これまでの「働き方」は大きく変容しました。多くのイベントがオンライン上で完結するようになり、本年会のようなオンライン学会にも多くの人が滞りなく参加できていることは、before コロナ時代には思いもしなかったことだと思います。今後も「ちょっと Zoom で打ち合わせ」というように、オフラインとオンラインとをうまく併用しながらの生活になっていくでしょう。

日本生物物理学会では、男女共同参画と若手支援を目的とした企画シンポジウムを毎年の年会で開催してきました。多様なキャリアパス、多様な働き方・生き方、ワークライフバランスなどを取り上げることが多いですが、今年は特に After コロナ時代を見据えて、「働き方」が今後どうなるのか、どうしていきたいのか、どうありたいのか、ということを考えるきっかけになるようにと思い、このようなテーマのシンポジウムを企画しました。

ところで、コロナ禍の一番の弊害は、雑談が気軽にできなくなってしまったことだと思います。研究の話はオンライン学会で聞けても、オンライン学会ではなかなか「雑談」をすることができません。身近な人以外のキャリアの話やワークライフバランスの話がほとんど聞けなくなってしまったことに、強い危機感を持っています。本シンポジウムは、研究の話というよりは働き方に対する価値観や工夫、経験といった貴重な「雑談」に焦点を当てたいと思います。デンマークで長く働かれている Novozymes A/S の土屋理恵さん、分子科学研究所 教授であり育児休業制度の利用経験もある石崎章仁さん、研究業界から官公庁に入られた若手である伊藤奨太さんの3名の話を伺いたいと思います。それぞれの講演者の雑談トークにより、皆さんがあなたなりの働き方に触れ、来たる After コロナ時代に向けて働き方について考えるきっかけとなれば幸いです。